

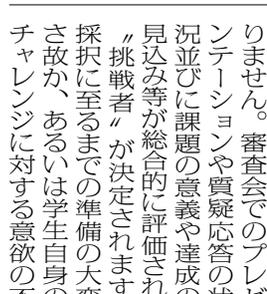


SOUTEN No.378

新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は、当財団の運営に對し、皆様方からの温かいご支援、ご厚情を賜り、心より御礼を申し上げます。また、能登半島地震や数々の自然災害により被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、被災地域が一日も早く復旧を果たし、安心・安全な日常を取り戻すことができるよう祈念いたします。当財団は公益財団法人として、鹿屋体育大学の教育の振興に資するために必要な助成、体育・スポーツ活動において優れた成績を収めた学生及び競技団体に対する奨学金の給付等を行うとともに、同大学における体育・スポーツの振興と競技力の向上に資する事業を展開し、併せてスポーツクラブの育成など地域スポーツの振興並びに国民の健康及び体力の増進に寄与す

ることを目的とした事業を行っております。昨年は、フランス・パリで第33回夏季オリンピック競技大会、第17回パラリンピック大会、第17回パラリンピック競技大会が開催され、鹿屋体育大学からも卒業・修了生である杉野正亮さんが体操競技男子団体及び男子種目別あん馬、鉄棒に、橋本英也さんが自転車競技男子チームパシュートにそれぞれ出場されました。なかでも、杉野さんは体操競技男子団体において、あん馬や鉄棒などの種目に出場し、2大会ぶりの金メダル獲得に貢献しました。鹿屋体育大学としては2004年のアテネオリンピック・競泳女子800メートル自由形に出場した柴田亜衣さん以来となるメダリスト、しかもお二人とも金メダリストとなります。杉野さんの気迫あふれるダイナミックな演技は、見る者に興奮や感動とともに活力を与え、あらためてスポーツの持つ力・価値を感じる機会となりました。

さて、今年は何年です。巳年は変化と成長の象徴と言われ、成長の速度は人それぞれであり、速いスピードで成長し、成果をつかむ人もいれば、ゆっくりと歩みを進める人もいます。鹿屋体育大学及び学生の皆さんが新たな挑戦に向かっている。そのペースで、素晴らしい変化の年として未来を切り拓いていけるための援助ができるよう、当財団は公益財団法人として精一杯努力していく所存です。今後とも、保護者の皆様、企業の皆様方におかれましては、当財団へのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、皆様方のご多幸を心より祈念申し上げます。新年のご挨拶と



新年明けましておめでとうございます。旧年中は鹿屋体育大学をご支援いただき、誠にありがとうございました。本年もよろしくお願いたしました。新型コロナウイルス感染症の5類への移行から約1年半が経ち、令和6年度には、授業及び課外活動もコロナ禍前と同様な状態に戻りました。そのような状況の中、これまで以上に学生の関心を集めたと感じたのが、学長裁量経費に基づいて企画される「学生挑戦プロジェクト」です。

本学では、通常の教育カリキュラムを越えた学生の自主的活動を支援する取り組みの一つとして、平成28年度より「学生挑戦プロジェクト」を実施しています。このプロジェクトでは、国内挑戦と海外挑戦の2領域が設定されており、採択者には旅費あるいは必要経費等が支援され、本学に在籍する学生であれば、誰しもが申請することができます。学生挑戦プロジェクトにおいて「挑戦者」に採択されるためには、申請者は挑戦の背景や目的、目的達成に向けた具体的アプローチ等に関する審査会をクリアしなければなりません。審査会でのプレゼンテーションや質疑応答の状況並びに課題の意義や達成の見込み等が総合的に評価され、「挑戦者」が決定されます。採択に至るまでの準備の大変さ故か、あるいは学生自身のチャレンジに対する意欲の不

足によるものか不明ですが、本プロジェクトが開始された平成28年度から令和5年度までの申請件数は年度平均4件でした。しかし、令和6年度は、これまでの最多となる11件の申請があり、審査の結果、4件の海外挑戦及び3件の国内挑戦が採択されました。学生挑戦プロジェクトに申請される企画は、「競技力の向上」をメインテーマとするものだけではありません。令和6年度に採択されたプロジェクトについてキーワードから概観すると、その内容は「障がい者・スポーツ・運動イベント」「フランス・世界基準・レフェリング」「イギリス・剣道・グローバル」「フィリピン・公立小学校・インターシップ」「ドイツ・ジュニア育成・トレーニング科学」「柔道形選手権大会」(U-23)「出場・世界一」地域貢献・スポーツの力・鹿屋体育大」学野球部・価値向上」であり、学生は様々な視点からチャレンジしようとしていることがうかがえます。また、先に述べたように海外挑戦が国内挑戦を上回ったという点も、令和6年度の特徴といえるでしょう。令和6年度入学生に対して、昨年4月に実施したアンケートの結果によると、本学で学びたい又は興味ある分野として、約65%の学生が第一に「競技の実技能力」を挙げており、教職あるいは実技外の各専門科目が関連する項目を選択した学生は、各項目当たり10%未満でした。つまり入学時点で、過半数の学生が「スポーツ」あるいは武道を実践する能力の向上を第一に考えていることとなります。また、ほとんどの学生が、入学から卒業ま

での4年間にわたり、入学時からの課外活動を継続します。それらの点を考えると、本学の学生は、大学生の活の基盤として「専門とする競技を実践し続け、実技力の向上をめざす」ことに、強いこだわりを持っているといえます。その姿勢は、体育大学に在籍する学生として誇らしいものです。一方で大学としては、本学の学びを糧に、国内外においてチャレンジを試みて欲しいという願いがあります。その思いを「学生支援」という形で具体化したのが、「学生挑戦プロジェクト」です。その成果は、学生個人あるいはその時限りのものとしてではなく、将来我が国のスポーツや武道の新たな価値の創出につながると考えています。例年、2月中旬から3月初旬にかけて、各プロジェクトの成果報告会が開催されます。令和5年度の報告会では、全てのプロジェクトの成果を確認しましたが、いずれも興味深い内容でした。今年度も例年と同様な時期に報告会が予定されています。学生達の挑戦の成果を築き、報告会の開催を待ちたいと思います。挑戦を伴ってこそ、夢は現実味を帯びたものへと変化します。学生のみならず皆様にとっても、この1年が「夢×チャレンジ」の年となりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も、ご指導、ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。(E.H)



未来を切り拓く一歩

羽ばたけ 大空へ

蒼天

新聞財団

編集：鹿屋体育大学
発行：公益財団法人鹿屋体育大学 体育・スポーツ振興教育財団
編集責任者：鹿屋体育大学長
発行人（発行責任者）：財団理事長 風呂井 敬
財団事務局：〒891-2393 鹿屋市白水町1番地内 0994-46-4827(直)

令和6年度 卒業証書・学位記授与式のご案内

日時：令和7年3月24日(月) 10時30分～
会場：鹿屋体育大学 水野講堂

※YouTube配信します。詳細は、後日大学HPにUPいたします。

理事 長 風呂井 敬



「夢」×「チャレンジ」

国立大学法人鹿屋体育大学 学長 金久博昭

私の専門分野の海洋スポーツは、春先から秋口までイベントが多く4月には公開講座が始まる。SUP、カヌー、ヨット、ダイビングといった種目が体験でき、一般の方々・子どもたちが足を運んでくれている。海で思いきり楽しむ自然エネルギーをチャージして日常へ。明日から仕事に邁進できます！という参加者も結構多い。マリンスポーツキャンプでは、子どもたちが海の魅力を心と体で感じている様子が見える。こちらも充実感でいっぱいになる。一緒に参加する学生が疲労困憊になるほど子どもたちはエネルギーに満ち溢れている。海洋系の学生たちが一緒にイベントを企画し、朝から晩まで海にいらることをためらわずに楽しんでいく様子もまたうれしく思う。海は楽しいだけではなく、怖い一面もある。海は危ない、怖いというイメージを持たれる方も少なくない。不安を払拭できる環境作りも課題のひとつにある。正しく恐れ、海へのゲートをしつづけ、たくさんの方々に楽しんでもらうには、自分自身の技量向上に努め、「識る」を広げていかなければならぬ。イベントの落ち着く冬場には自己研鑽というフレーズを持ち出して、学びのような遊びのような感覚で技量の向上に勤しむ。そして休みの日も一人ぼっちで海に出かける。冬場を個人的シーズニングなのである。さあ、今日も海に出よう。(E.H)

スポーツを愛する人たちへ

(公財)ミズノスポーツ振興財団は「日本国のスポーツの振興に必要な事業を行い、さらなる国民の心身の健全な発達に資する」を目的とし、その活動は50年以上にわたります。具体的には、スポーツの普及振興やスポーツの国際交流の発展に対する助成、スポーツに関する科学的・学術的・医学的研究に対する助成、優秀なスポーツ指導者やスポーツライターを顕彰する事業などを行っており、その助成累計額は約86億円に及びます。

公益財団法人 ミズノスポーツ振興財団

卒業生 Interview

オリンピックの夢を実現
パリ五輪金メダリスト
徳洲会体操クラブ

学部34期生
修士34期生
杉野 正亮 さん



【Profile】

すぎの・たかあき。1998年10月18日、三重県生まれ。福井県立鯖江高等学校から、2017年4月鹿屋体育大学スポーツ総合課程に入学。同年6月、全日本体操種目別選手権のあん馬で初優勝。2019年7月、同選手権のあん馬で再び優勝。補欠として臨んだ東京五輪を経て、2022年9月、第55回全日本シニア体操競技選手権大会個人総合優勝。2023年6月、第77回全日本体操種目別選手権のあん馬で優勝。同年9月、第56回全日本シニア競技選手権大会個人総合優勝。2024年3月、鹿屋体育大学大学院修士課程修了。パリ2024オリンピックでは体操男子団体、男子種目別あん馬、鉄棒に出場し、男子団体の金メダルに貢献した。同年紫綬褒章受章。徳洲会体操クラブ所属。

体操男子「金」に杉野（鹿屋体育大学卒）が貢献。パリ五輪での逆転劇をたたく、地元新聞の号外をはじめメディア各紙に大きな見出しが躍った。杉野正亮さんのダイナミックで完璧な演技に、日本中が沸いた。鎌倉市にある徳洲会体操クラブの新拠点、「徳洲会ジムナスティックスアリーナ」でのインタビュー。キャプテンを務める徳洲会体操クラブは、第78回全日本体操団体選手権でも男子団体3連覇を果たした。悔しさをバネに、いつか必ずと信じてつかみ取ったオリンピックへの道。学生時代、オリンピックに一番近い存在として多くのメディアに出てもらった。金メダルを取ってもあの頃と少しも変わらず、さわやかに自然体のまま。秘めた想いは今も昔も変わらず、だれよりも熱い。母校の魅力を発信してもらおうべく、「鹿屋体育大学広報アンバサダー第一号」も委嘱された。少年のように澄んだ瞳は早くも4年後のロス五輪を見据え、「演技を極め研ぐ」という兄からの言葉を胸に揺るぎない闘志に燃えている。

まずはパリ五輪での体操男子団体金メダル、おめでとございませう。杉野 ありがとうございます。杉野 初優勝のときに比べて、うれしさといいよりは着実にステップアップしてきている、ということですね。杉野さんにとっての鹿屋体育大学とは？ 杉野 夢を目標に変えられた場所です。今の自分自身をつくりあげてきた、絶対にオリ

自分の可能性や視野を広げたいと思いましたが、研究には客観的視点が必要だと感じました。自分の演技や動きを一つ一つ引いて俯瞰して見ることでできるようなことが、修士論文を書いたことで得られた能力だと思っています。挫折しそうになったとき、研究者の道に進んだ2番目のお兄様の言葉に救われたとか。杉野 兄の言葉はスマホの待ち受け画面にしています。「努力は往々にして報われない。でも勝つためには努力し続けるしかない」というくだりがあった。オリンピックに行くって金メダルを取るってそう簡単なことではないし、頑張っても届かない人もいる。まだ始まったばかりなのに、あきらめるようなことをしちゃダメだな、もう一回一からやり直して頑張ろうと思えました。杉野 お父様への恩返しのために、オリンピックで金メダルを取りたいから頑張りたい。杉野 母は試合を見に来るときは、いつも父の写真を持ってきています。父はいなくなっただけで、目標は達成できて、母と2人の兄たちにパリまで応援に来てもらって金メダルを見ることができたことは幸せな経験だったと思います。杉野 徳洲会体操クラブのキャプテンも務めています。今後の夢は？ 杉野 4年後のロス五輪が私の競技人生のひとつの区切りだと思っ



左から金久学長、永岡さん、植木さん、坂口講師、前田理事・副学長



左から植木さん、室伏スポーツ庁長官、永岡さん

「スポーツ健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」 本学学生がアイデア部門の 「優秀賞」を受賞！

本年度で2回目を迎える「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」(スポーツ庁主催)が開催され、45点の応募の中から一次審査(書類審査)を通過したアイデア部門12点、デザイン部門5点の二次審査が11月6日(水)に東京・室町三井ホール&カンファレンスで行われました。審査員は室伏広治スポーツ庁長官をはじめ8人の有識者が務めました。アイデア部門には本学から植木一喜さん(スポーツ総合課程3年)と永岡勇次郎さん(同3年)の2名が選ばれ、熱のこもったプレゼンテーションを披露して「優秀賞」を受賞、11月14日(木)にゼミ担当教員の坂口俊哉講師と共に金久博昭学長へ受賞の報告を行いました。植木さんと永岡さんのテーマは、「国立青少年教育施設と子どもを繋げ、自然体験活動の機会が多い街へ」。自然の家と子ども会の仲介役として大学生ボランティアが入ること、自然の家には利用者への向上を、子ども会には体験の機会を、大学生には学びの機会を提供するというすぐにも実現可能な「三方よし」の考え方に基づくアイデアを、4分間の持ち時間でプレゼンしました。報告を受け、二人は「スポーツ庁主催のコンペで発表できたということが、僕ら2人にとっても大きな出来事でした」と受賞の喜びを話した。坂口講師は「2人とも常にアンテナを張ってポジティブに動いているので、次のチャレンジを期待しています」とコメントしました。

頃は可能性が無限にあると思うので、スポーツや学問に限らず、自分の可能性をぜひ見出してほしいです。夢に向かって頑張る後輩たちを、応援していきます。(取材・文/西みやび)

まっすぐに。正直に。
大波酒造株式会社
〒893-0016
鹿児島県鹿屋市白崎町21番1号
電話(0994)44-2190 FAX(0994)40-0950
○飲酒は20歳になってから。
○飲酒は楽しく、適量を。
○妊娠中、授乳期の飲酒はお控え下さい。
○飲酒運転は法律で禁止されています。

Kubota 農業機械
株式会社
三木商会
http://www.mizuho.kubota.ne.jp
〒893-0009
鹿児島県鹿屋市大手町12番1号
TEL (0994) 43-4178
FAX (0994) 44-9371
【営業所】
鹿屋・高山・志布志・岩川・
牧之原・野方・垂水・大根占

汲取の御注文
浄化槽の管理
N
水質安全に
全力投球
鹿屋市許
株式会社 西日本浄化サービス
代表取締役 田中ふみ子
鹿屋市王子町4531-2
TEL (0994) 43-3425

あなたの町に、レモンガス
株式会社レモンガスがごしま
鹿屋支店
鹿屋市大浦町11423番地1
0994-42-2181

11月9日、鹿屋体育大学の学園祭「蒼天祭」を一般来場者も迎えて、ぎやかに開催しました。メイン会場となった多目的グラウンドでは、午前10時に体育会会長の月館龍之介さん（武道課程2年、福島県高等学校・福島）の挨拶でスタート。オープニングを飾ったのはダンス部で、「Hazzuki」のたおやかな演技と「ダンス部パフォーマンス」での幕開けとなりました。ラグビー場では同

じく10時に「学長杯 破魔投げ大会」が開催されました。ステージでは11時から「歌うまコンテスト」が開催され、当日飛び入りを含む6人が参加、見事グランプリに輝いた大江田流偉さん（スポーツ総合課程2年、筑紫高等学校・福岡）は、「飛び入り参加で良かったが、みんなの前で大好きな米米CLUBの浪漫飛行を歌うことができてよかったです。歌だけでなく、課外活動の競技・やり投も強くな

れるように頑張ります」と、笑顔で優勝の喜びについて話してくれました。「べこば」を「カミナリ」に「ゆってい」を迎えた芸人ライブ開始時間の13時には、来場者数もピークになりました。14時過ぎからは蒼天祭恒例の「マッスルコンテスト」が始まり、男女がそれぞれ登場、男性の部には飛び入り参加を含む12人が参加しました。昨年の優勝者・松本仁心さん（スポーツ総合課程4年、坂

出工業高等学校・香川）と島袋昂大さん（同4年、福岡保健・スポーツ専門学校、沖繩出身）が同点で決選投票となり、島袋さんが優勝しました。島袋さんは「2024九州学生ボテイル選手権で団体は優勝でしたが、個人では2位で優勝を逃したので、そのくやしさを蒼天祭のステージで晴らすことができました。バーベル部としても優勝できてうれしです」と喜びの声を聞かせてくれました。

会場に設けられた模擬店には留學生や若手職員有志の会（Thank U会）、坂口俊哉講師（スポーツ人文・応用社会科学）のゼミ生など、学内関係者による出店のほか企業出店による飲食の販売が行われました。そのほかSPORTESスポーツパフォーマンス研究センターの見学・体験、柔道部、カヌー部による体験型ブースなども開催され、来場者は本学の特色を生かした催しを存分に楽しんでいました。



マッスルコンテスト

マッスルコンテストで優勝した島袋さんと準優勝の松本さん



「PIZZAとノンアルコールを売ったかった店」で、ホットサンドやフライドポテトを販売した坂口ゼミのみなさん



ビンゴ大会



ダンス部パフォーマンス

一般来場者も集い

『蒼天祭2024』をにぎやかに開催！



課外活動団体紹介 セパタクロー部

「鹿屋セパタクロークラブ」のみなさんと

まずは「セパタクロー」とはどんなものなのかご紹介しましょう。「セパ」はマレー語で「蹴る」、「タクロー」はタイ語で「ボール」を意味していて、東南アジア発祥の伝統的なスポーツを指します。選手たちは手を使わず、足や頭を駆使してボールを扱い、相手コートに返すことを目指します。バレーボールとサッカーを融合させたような競技と言えばイメージしやすいでしょうか。試合は通常3人制で行われ、選手の俊敏な動きやアクロバティックなプレーが大きな見どころです。試合では高度な技術と高いチームワークが求められるため、選手同士の連携も戦略の一環として重要です。

さらに、アクロバティックな見た目の背景に、相手の動きを読み合いながらの攻防が繰り広げられます。日本では、ほとんどの人が大学からセパタクローを始めます。スタートラインが一緒の仲間たちと楽しく、時に厳しくセパタクローに取り組むことができます。特に私たち鹿屋体育大学セパタクロー部は、広島県尾道セパタクロークラブや千葉大学セパタクロークラブなど他大学と交流したり、時には本学セパタクロー部を創設した元本学顧問教員の竹下俊一先生も一緒にセパタクロー教室を開催することで、鹿屋市の方々と楽しくセパタクローに取り組んでいます。



学長杯 破魔投げ大会には子どもたちも参加



破魔投げ大会の様子

「視覚」「触覚」が「記憶」に残る
SUGOHAKU
 【厚盛デジタル加飾システム】-KIRAMEKI-
 視覚と触覚で感じる

印刷物へ新たな付加価値を
 厚盛クリアニスの上に箔を加飾させることで、盛り上がった立体的な箔加工が可能になりました。従来の箔押しと一線を画したグラマラス感のある仕上がり。

パッケージ・パンフレット・ポスター etc.に、ご利用いただけます。

厚盛デジタル加飾により盛り上がった箔加工
 厚盛クリアニスによるリアルなテクスチャ感

鹿屋市鹿屋市礼元1丁目22-34
TEL 0994-43-2238
 URL <http://www.shinsei-p.co.jp> E-MAIL kan@shinsei-p.co.jp

自宅・アルバイト先 ← DIRECT! → kotobuki Driving School ← DIRECT! → 学校・寮

★その日のスケジュールに合わせて1時間おきにダイレクト送迎
 忙しい学校生活の強い味方です!!
 ★提携会社による分割払いも月々5000円からご利用になれます

心豊かな車社会を願う
寿自動車学校
 運転免許のことなら

ご予約・お問い合わせ **TEL 0994-43-2627** E-mail: info@kotobuki-ds.jp
 〒893-0013 鹿児島県鹿屋市礼元1-13-30 県公安委員会指定教習所[技能試験免除]
 ホームページURL <http://kotobuki-ds.jp>

すべての消費者のために!!

MOVE
 This year's Future
寿スポーツ
 BE FIRST
 鹿屋市新川町603-2
 TEL 0994-44-2123

全日本自転車競技選手権大会トラックレースで

JAPAN NATIONAL TRACK CHAMPIONSHIPS 2024



左から岩元さん、年見さん、加藤さん

女子チーム スプリント 優勝!!

9月6日～9日に静岡県伊豆ペドロロームで開催された「全日本自転車競技選手権大会トラックレース」で、自転車競技部の若菜美佳さん(スポーツ総合課程3年、都城工業高等学校・宮崎)、年見穂風さん(同3年、同)、加藤明日香さん(同1年、科学技術高等学校・福井)のメンバーが、女子チームスプリントで優勝しました。

岩元さんは「今回、先輩たちが抜けての大会で



左から村橋さん、美坂さん、河野さん



左から松本さん、久保田さん

8月27～30日に石川県小松市の木場潟カヌー競技場で「第60回全日本学生カヌー選手権大会」が開催され、カヌー部の複数の学生が優勝を果たしました。

1000mで優勝したのは男子カヌーシングル(K1)で松本仁心さん(スポーツ総合課程4年、坂出工業高等学校・香川)、男子カナディアンシングル(C1)で美坂優宙さん(同3年、宮崎商業高等学校・宮崎)、男子カヤックペア(K2)で村橋太郎さん(同2年、宮崎大宮高等学校・宮崎)と河野成政さん(同2年、

優勝!!

高田高等学校・大分のペアです。

松本さんは「カンカレ(関西学生カヌー選手権大会)では2位で優勝できなかったのですが、インカレではレースペースを見直しスタートからゴールまで、トップを漕ぎ切る事ができました。美坂さんは「日頃から携わってくださる方々の応援や支えが励みになり、今回の優勝に繋がったと思います。決して一人では成し遂げられないことだと思えました。まずは感謝の気持ちを伝えたいです。村橋さんは「練習でやってきたことが、レースで生かして良かったです。来年も優勝します!」、河野さんは「今回で毎日の辛い練習が意味のあるものだという事を示すことができ、とてもうれしく思います。ペアだけ

闘いの記録 (令和6年10月～11月)

【陸上競技部】
 ■第9回九州学生陸上競技新人選手権大会 (10/26～27 長崎/島原市陸上競技場)
 ▽男子 ハンマー投 1位 井上 康大
 やり投 1位 大江田 琉偉
 ▽女子 円盤投 1位 廣井 楓

【テニス部】
 ■2024年全日本大学対抗テニス王座決定試合(男子78回・女子60回) (10/30～11/3 東京/有明テニスの森公園テニスコート)
 ▽男子 ベスト8 鹿屋体育大学
 ▽女子 ベスト8 鹿屋体育大学

【女子バレーボール部】
 ■令和6年度九州大学秋季バレーボール女子1部リーグ (9/28～10/27 大分/レゾナック武道スポーツセンター他)
 ▽女子 1位 鹿屋体育大学

【体操競技部】
 ■第78回全日本体操種目別選手権(11/22～24 三重/四日市市総合体育館)
 ▽男子 種目別あん馬 3位 津村 涼太

【水泳部】
 ■第66回日本選手権(25m)水泳競技大会 (10/19～20 東京/東京アクアティクスセンター)
 ▽男子 50m自由形 6位 市村 優弥
 ■ジャパンオープン2024(50m) (11/29～12/1 東京/東京アクアティクスセンター)
 ▽男子 50m自由形 7位 市村 優弥
 50m自由形 7位 久保田 梨琉
 ▽女子 200mバタフライ 8位 後野 真衣

【剣道部】
 ■第72回全日本学生剣道優勝大会(10/14 大阪/Asueアリーナ大阪)
 ▽男子 2位 鹿屋体育大学

【なぎなた部】
 ■第49回西日本学生なぎなた選手権大会(11/17 大阪/熊取町立総合体育館)
 ▽女子 演技競技 3位 國光、森脇
 試合競技 個人段外の部 1位 川添 瑠香
 試合競技 団体の部 2位 鹿屋体育大学B

した。チームスプリントも新メンバーで、楽しみと不安がある中での出走でした。予選も1位通過でき、決勝でも優勝することができてうれいす。年見さんは「チームスプリント優勝という目標をインカレで達成できなかったが、全日本という舞台でリベンジできてうれいす! 次の目標に向けてこれからまた頑張ります。加藤さんは「初めてチームスプリントを走って、とても不安だったし緊張しましたが、心強い先輩がいたおかげで安心して走ることができ、優勝することができました」と、新メンバーで手に入れた「優勝」を、次の大会に向けての意欲へつなげました。

でなく、シングルでも活躍できるよう努力していきます」と優勝についてのコメントを寄せてくれました。

200mでは男子カヤックシングル(K1)で松本仁心さん、男子カナディアンシングル(C1)で久保田桂仙さん(同4年、大口高等学校・鹿児島)が優勝しました。1000mと2000mのダブル優勝を手に入れた松本さんは「二冠のプレッシャーはありましたが、得意とする種目のため、今まで練習してきたことをやるだけだと自分に言い聞かせ、良い緊張で優勝することができました。久保田さんは「4年間インカレ優勝だけを目標に練習をしてきたので、日本一を勝ち取ることができて安心したし、とてもうれしかったです。圧倒的な差で日本一を証明することができたと思えます」と、学生生活最後の年に念願の学生日本一を手に入れることができた喜びはひとしおだったよつです。

11月10日に「第6回外国人日本語スピーチコンテスト」(主催:鹿屋市国際交流協会)が鹿屋市役所で開催され、中国からの留学生、馬驍軒(マチェンケン)さん(スポーツ総合課程2年、新宮高等学校)が最優秀賞を受賞しました。12月4日、日本語と英語の指導をしてくださる国重教授(スポーツ人文・応用社会科学系)とともに馬さんが金久博昭学長、前田明理事・副学長を表敬訪問しました。

中学2年生の夏に日本に来た馬さんは「二つの田舎を生きた私が思うこと」の題名で、母国中国と現在住んでいる鹿屋での体験を多くのユーモアを取り入れながら、最後は自分を成長させてくれたどちらの田舎も大好きだと結びました。中国の原始的なトイレの話のところで、ブラジルのサンバみたいにお尻を動かさないといふ話がお尻にあいつにききますと話していました。「もともと日本語と文章を書く能力が高いの馬さんは「ご指導いただいた国重先生のおかげです」と感謝の気持ちを伝え、「卒業後は大学院に進学し、日本の永住権を獲得したいと考えています。できれば英語圏で働きたいという気持ちもあって、国重先生の下で英語の勉強もしています。最優秀賞を受賞できたことが自信に繋がったので、これからも将来に向けてさまざまなことにチャレンジしていきたいと思えます」と話しました。好奇心でさらさらと輝く瞳から、馬さんの無限の可能性が伝わってきました。



左から金久学長、馬さん、国重教授、前田理事・副学長

外国人日本語スピーチコンテスト 馬驍軒さんが最優秀賞を受賞!

校・福岡)が最優秀賞を受賞しました。12月4日、日本語と英語の指導をしてくださる国重教授(スポーツ人文・応用社会科学系)とともに馬さんが金久博昭学長、前田明理事・副学長を表敬訪問しました。

中学2年生の夏に日本に来た馬さんは「二つの田舎を生きた私が思うこと」の題名で、母国中国と現在住んでいる鹿屋での体験を多くのユーモアを取り入れながら、最後は自分を成長させてくれたどちらの田舎も大好きだと結びました。中国の原始的なトイレの話のところで、ブラジルのサンバみたいにお尻を動かさないといふ話がお尻にあいつにききますと話していました。「もともと日本語と文章を書く能力が高いの馬さんは「ご指導いただいた国重先生のおかげです」と感謝の気持ちを伝え、「卒業後は大学院に進学し、日本の永住権を獲得したいと考えています。できれば英語圏で働きたいという気持ちもあって、国重先生の下で英語の勉強もしています。最優秀賞を受賞できたことが自信に繋がったので、これからも将来に向けてさまざまなことにチャレンジしていきたいと思えます」と話しました。好奇心でさらさらと輝く瞳から、馬さんの無限の可能性が伝わってきました。

ありがとうございます
 国際交流費は、奨学金、奨励金、学内研修等に利用させていただきます。心から感謝申し上げます。
 鹿屋体育大学3期生様 (一万五千八百円)

鹿屋体育大学ではこの「蒼天」や公式ウェブサイト、その他SNS等を通して皆様へ本学の活動情報をお知らせしております。ご意見がございましたら、今後の運営・活動の参考にさせていただきますのでぜひお寄せください。

ご意見・アンケートは右記二次元コードからweb入力できます。



鹿屋体育大学へのご意見をお寄せください。

